

### 第3章 まとめ

表 15 に 1998 年(9月、11月)、1999 年(8月、9月、12月)、2000 年(8月、9月、12月)、2001 年(郵送、12月)、2002 年(郵送、12月)、2003 年(8月、9月、10月、11月、12月)の調査で「覚せい剤使用者を知っている」と回答した者の比率を示している。まず、質問文を再掲しておく。

1998 年(9月、11月)(調査票 98) 質問文(ただし、11月調査では Q3)

Q12 あなたは、あなたの周りで覚せい剤を使用している人がいると思いますか。

(あなたの考えにあてはまるものを一つ選んで教えてください)

1. いない。
2. 具体例は知らないが、少しはいると思う。
3. 使用している人を知っている。
4. 答えたくない。
5. わからない。

1999 年(8月、9月、12月)、2000 年(8月、9月、12月)(調査票 99) 質問文

Q4 あなたは、あなたの周りで覚せい剤を使用している人がいると思いますか。この中から、あてはまるものを一つ選んで下さい。

1. 使用している人を知っている
2. 具体例は知らないが、少しはいると思う
3. いない
4. 答えたくない
5. わからない

SQ1 また、その性別と年齢および使用時期と使用頻度について、この中からあてはまるものをそれぞれ一つずつ選んでください。複数人数知っている場合は、新しく知った順番に 3 人まで答えてください。

(1) (2) (3)

一番最近に 二番目に近い 三番目に近い  
知った人 時期の人 時期の人

(使用時期と使用頻度)

(ア) 最近(1年以内)・常習的使用 .....	1	.....	1	.....	1
(イ) 最近(1年以内)・数回以下の非常習的使用 ...	2	.....	2	.....	2
(ウ) 過去(1年以上前)・常習的使用 .....	3	.....	3	.....	3
(エ) 過去(1年以上前)・数回以下の非常習的使用	4	.....	4	.....	4
答えたくない .....	5	.....	5	.....	5
分からない .....	6	.....	6	.....	6

2001年(12月)、2002年(12月)(調査票01)質問文

Q3 あなたは、あなたの周囲でシンナーなどの有機溶剤、大麻、MDMA、コカイン、向精神薬、覚せい剤、ヘロインの薬物を乱用している人を知っていますか。

1 使用している人を知っている      2 知らない      3 答えたくない      4 わからない

---

└─> (Q4へ)

SQ1 . あなたは、何人ぐらい使用している人を知っていますか。

人      1 答えたくない (Q4へ)  
2 わからない

SQ2 . [回答票12]では、使用薬物、使用時期ごとに薬物使用者の人数をお答えください。  
(1)シンナー等の有機溶剤について、(ア)1年未満では何人ですか。(イ)1年以上前では何人ですか。  
【調査員注：(2)～(7)も同様に聞く】

	(ア) 1年未満	(イ) 1年以上前
(1)シンナーなどの有機溶剤 .....	人.....	人
(2)大 麻 .....	人.....	人
(3)MDMA .....	人.....	人
(4)コカイン .....	人.....	人
(5)向精神薬 .....	人.....	人
(6)覚せい剤 .....	人.....	人
(7)ヘロイン .....	人.....	人

2003年(8月、10月)(調査票A)質問文

Q4 . あなたのまわりで覚せい剤を使用している人を知っていますか。

1 使用している人を知っている      2 具体例は知らないが少しはいると思う      3 いない      4 答えたくない      5 わからない

---

└─> (Q5へ)

Q4 - SQ . あなたは、何人ぐらい使用している人を知っていますか。  
使用した人の使用時期から、(1)ここ1年未満、(2)1年以上に分けて教えてください。  
(1)1年未満      (2)1年以上

人       人      1 答えたくない  
2 わからない

2003年(9月、11月、12月)(調査票B)質問文

Q2. あなたは、あなたの周囲でシンナーなどの有機溶剤、大麻、覚せい剤の薬物を乱用している人を知っていますか。

- 1 使用している人を知っている      2 知らない      3 答えたくない      4 わからない
- (終了)

SQ1. あなたは、何人ぐらい使用している人を知っていますか。

人

- 1 答えたくない      2 わからない      (終了)

SQ2. [回答票2]では、使用薬物、使用時期ごとに薬物使用者の人数をお答えください。

(1)シンナーなどの有機溶剤について、(ア)1年未満では何人ですか。(イ)1年以上前では何人ですか。

【調査員注：(2)~(3)も同様に聞く】

	(ア) 1年未満	(イ) 1年以上前
(1)シンナーなどの有機溶剤 .....	人.....	人
(2)大 麻 .....	人.....	人
(3)覚せい剤 .....	人.....	人

表 15 覚せい剤使用者を知っていると答えた者の信頼区間 95%の区間推定

調査月	総数	人数	下限	推定値	上限
1998年 9月	1419	23	1.0	1.6	2.3
1998年 11月	1427	28	1.2	2.0	2.7
1999年 8月	1394	45	2.3	3.2	4.2
1999年 9月	1427	32	1.5	2.2	3.0
1999年 12月	1341	32	1.6	2.4	3.2
2000年 8月	1413	29	1.3	2.1	2.8
2000年 9月	1432	29	1.3	2.0	2.8
2000年 12月	1376	35	1.7	2.5	3.4
2001年 郵送	1095	67	4.7	6.1	7.5
2001年 12月	1367	22	0.9	1.6	2.3
2002年 郵送	1045	48	3.3	4.6	5.9
2002年 12月	1419	12	0.4	0.8	1.3
2003年 8月	1372	33	1.6	2.4	3.2
2003年 9月	1385	11	0.3	0.8	1.3
2003年 10月	1417	36	1.7	2.5	3.4
2003年 11月	1414	8	0.2	0.6	1.0
2003年 12月	1355	9	0.2	0.7	1.1

図3にはオムニバス調査の結果を示している。縦棒の中心が推定された標本比率であり、上端が95%信頼区間の上限、下端が95%信頼区間の下限である。調査票98、調査票99、調査票Aの質問文は同等であるので、まとめて調査票Aと示している。また、調査票01と調査票Bの質問文は同等であるので、まとめて調

査票 B と示している。「はじめに」で述べたように、本年度の調査の目標は、2002 年 12 月の調査結果が本当に覚せい剤使用者の減少を示すものか、それとも単に、調査票の違いによるものかを確認することである。前章でも述べたように、調査票 A の調査については、1999 年 8 月を除いては、一定の比率

$$p_0 = 322/14018 = 0.022970$$

を持っていると考えてよい。一方、調査票 B については、2002 年 12 月を除いては、一定の比率

$$p_0 = 0.008934$$

を持っていると考えてよい。本年度の 8 月から 12 月の間に、乱用者数が急激に乱高下したと考えることは不自然である。また、2000 年以前と同等の質問文を用いた 8 月調査、10 月調査の結果が 2000 年以前と同等であることから、覚せい剤乱用者数については変化はないものと結論してよいと思われる。しかしながら、調査票 A、調査票 B とも安定した結果を生みだしており、どちらの調査の結果が「真の比率」を推定できているかは統計学的には判定することはできない。回答者は、調査票 B の方が調査票 A よりも煩雑で、答えにくく、煩雑であるという印象を受けるように思える。このために、「知っている」と答える人の数が減ったと思われる。

本調査ですっと用いてきた

知っている人 = 乱用者数

という仮説を用い、ここ 6 年の日本の 20 歳以上人口が約 1 億人であることより、調査票 A から推定される覚せい剤使用者（時期を問わない）は 1 億人の 2.3% である 230 万人となる。調査票 B の場合は 0.9%、90 万人となる。

表 16 には 1999 年から 2003 年までの調査における、回答者が知っている覚せい剤使用者の使用時期及び人数を示している。図 4-1 には図 3 と同様に「覚せい剤使用者を知っていると」と回答した者の比率、図 4-2 には「1 年未満の覚せい剤使用者」の延べ比率（比率は延べ人数を標本数で除することで求めた）、図 4-3 には「1 年以上前の覚せい剤使用者」の延べ比率（計算法は図 4-2 と同じ）を示している。図 4-2 を見ると、1999 年 8 月と 2003 年 8 月を除けば、調査票 A における、1 年未満覚せい剤使用者の延べ比率は 1.3% 前後である。また、調査票 B では 2000 年 12 月を除けば 0.1% から 0.4% の値となっている。これもどちらの調査票の値が真の値に近いかは分からないが、知っている使用者がすべて別である（複数の回答者が同じ使用者を知っているとは答えていない）と考え、調査票 A の場合は、ここ 1 年以内に使用した者は約 130 万人いることを示している。調査票 B では、10 万人から 40 万人である。図 4-3 で、1999 年、2000 年の 1 年以上前の覚せい剤使用者延べ人数比率が 2003 年 8 月、10 月と比べて小さいのは質問文のためであると考え。知ったのが近い人から順に 3 人を聞いているために、1 年以上前の使用者のことが答えられていないものと思われる。表 14-7 に示した不明のほとんどが 1 年以上前に分類されるものと思われるので、図 4-3 の 1999 年、2000 年の比率は図に示された値の 2 倍から 3 倍以上になるものと思われる。このことから、2003 年 8 月、10 月調査の 3.9%、3.6% は適切な値であると考え。この値を用いると、人の記憶に残る程度の過去に覚せい剤を使用した者は 360 万人から 390 万人程度はいると考えてよいことを調査票 A の結果は示している。一方、調査票 B の本年度の結果は 9 月調査を除けば明らかに小さすぎる。質問文が不適切だともわかりにくいとも思わないが、回答者から見ると答えにくかったのかもしれない。

平成 10 年度から開始した本調査も、平成 15 年度で終了する。調査票 B よりも調査票 A の方が答えやすかったと感じており、「覚せい剤乱用者数は減少していない」ということを調査の結論としたい。230 万人という風に具体的に人数を示しているが、標本数（表 10.6 の 10 回の調査の合計、約 14000）から考えて 25 万人程度の誤差を含んでいることに注意していただきたい（1 回の調査では、誤差は 80 万人）。推定精度を上げるには、標本数を増やすしかない。そのため、標本数を増やして調査を継続することも考えられる。しかし、乱用者が減っていないという現実を直視し、乱用者を減らすための政策に経費を投入する必要があると考える。特に、若年層への啓蒙活動は急務であると感じている。

図3 覚せい剤使用者を知っている者の信頼区間95%の区間推定

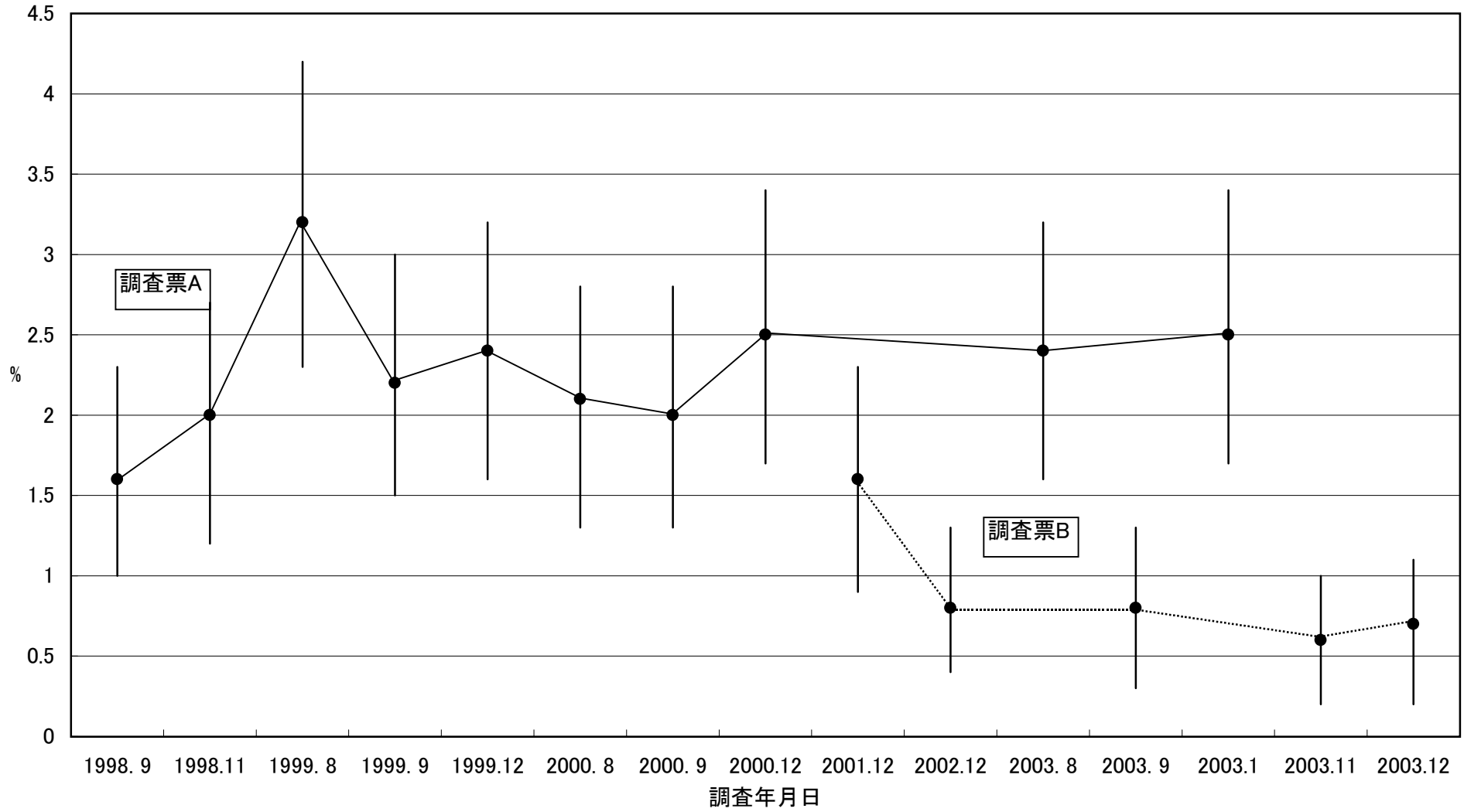


表16 覚せい剤使用者を知っていると答えた人数と知っている延べ人数

調査月	総数	人数	比率(%)	1年未満・人数	1年未満・延べ人数	1年以上・人数	1年以上・延べ人数
1999年 8月	1394	45	3.2		35		27
1999年 9月	1427	32	2.2		17		17
1999年12月	1341	32	2.4		20		18
2000年 8月	1413	29	2.1		16		20
2000年 9月	1432	29	2.0		13		17
2000年12月	1376	35	2.5		24		27
2001年12月	1367	22	1.6	9	15	13	26
2002年12月	1419	12	0.8	1	2	11	18
2003年 8月	1372	33	2.4	7	8	23	53
2003年 9月	1385	11	0.8	3	6	8	22
2003年10月	1417	36	2.5	13	22	21	51
2003年11月	1414	8	0.6	2	2	6	8
2003年12月	1355	9	0.7	1	5	8	11

(注1)1999年と2000年調査では1年未満あるいは1年以上前の使用者数を直接聞くような質問をしていないため、空欄としてい

(注2)ここで延べ人数とは、3人の使用者を知っていると答えた人数が2人の場合、 $2 \times 3$ の計算を行って、合計を求めている。ただし、5人以上は全て5人としている。また、「答えたくない」、「分からない」は除いている。

(注3)2003年8月と10月で1年未満・人数と1年以上人数の合計が人数と一致しないのは、「答えたくない」、「分からない」は除いたため

図4-1 覚せい剤使用者を知っていると回答した者の比率

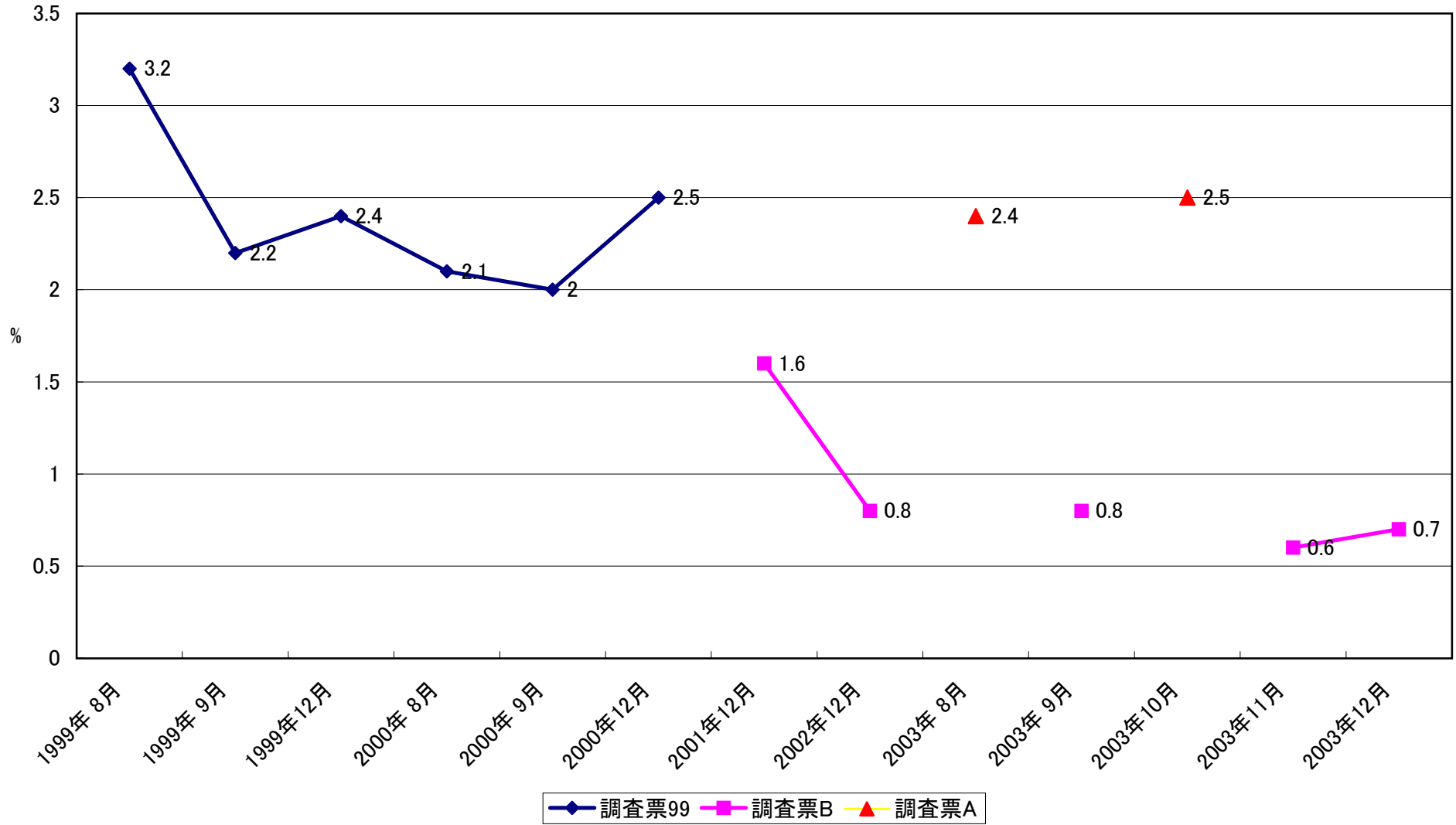


図4-2 1年未満の覚せい剤使用者延べ人数の比率

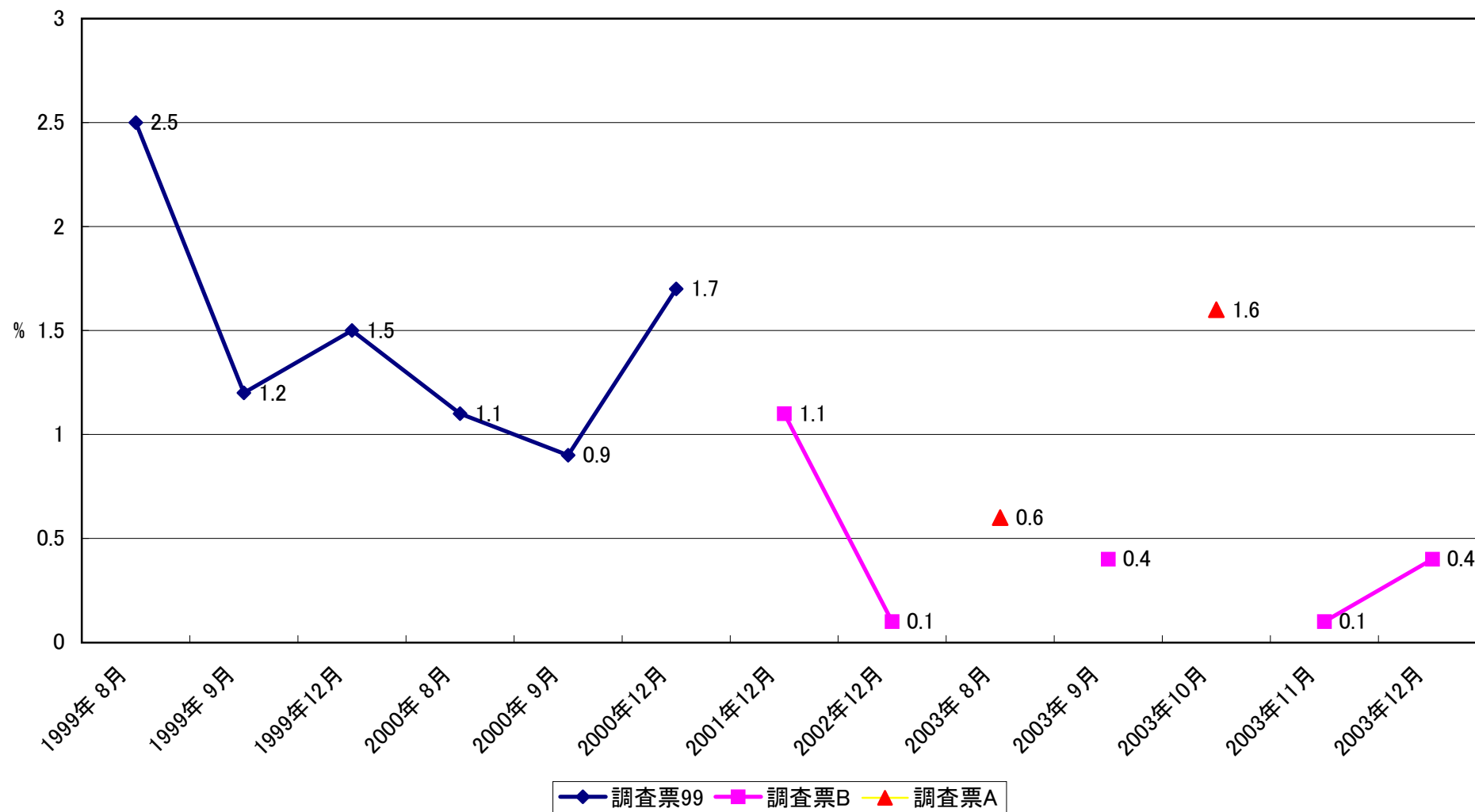




図4-3 1年以上前の覚せい剤使用者延べ人数の比率

